

# みやぎ経済月報

(2022年2月号)

令和4年3月1日

	目	次	
I	本県の経済概況	.....	1
II	主な指標の動き	.....	2
1	生産		
	鉱工業生産指数	12月 ....	2
2	住宅投資		
	新設住宅着工戸数	12月 ....	2
3	公共工事		
	公共工事請負金額	1月 ....	2
4	個人消費		
	百貨店・スーパー販売額	12月 ....	3
	コンビニエンスストア販売額	12月 ....	3
	家電大型専門店販売額	12月 ....	3
	ドラッグストア販売額	12月 ....	4
	ホームセンター販売額	12月 ....	4
	乗用車新車登録及び届出台数	1月 ....	4
	仙台市消費者物価指数	12月 ....	5
5	雇用		
	求人倍率	12月 ....	5
	所定外労働時間	12月 ....	6
	実質賃金指数	12月 ....	6
	雇用保険受給者実人員	12月 ....	6
6	企業倒産	1月 ....	7
III	宮城県景気動向指数	.....	8
IV	全国・東北等の景況	.....	10
V	主要経済指標	.....	14

## 利用される方に

■ この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

■ 資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によるもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

■ 数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 統計表の符号は次のとおりです。  
 「▲」.....負数  
 「…」.....数字が得られないもの  
 「ー」.....該当数字がないもの

■ 内容についてのご照会、ご意見は、  
 宮城県企画部統計課  
 (分析所得班)  
 〒980-8570  
 仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
 電話 022-211-2453 (直通)  
 にご連絡下さい。

■ 本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

**宮城県統計課ホームページ**  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/>

# I 本県の経済概況

## 12月を中心とした宮城県経済の概要

新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されてきたものの、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

○前回公表分からの変更点は、なし。

(変化方向※<sup>1</sup>)



1月号



2月号

※… 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。  
絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

## ○前回公表分との比較（下線部は変更箇所）

個別指標	前回公表分 (2022年1月号)	今回公表分 (2022年2月号)	変化方向※
生産	一進一退の動きとなっている。	一進一退の動きとなっている。	➡
住宅投資	緩やかな上昇傾向となっている。	緩やかな上昇傾向となっている。	➡
公共投資	減少傾向が続いている。	減少傾向が続いている。	➡
個人消費	新型コロナウイルス感染症や自動車等の供給上の制約などの影響から、持ち直しの動きに足踏みがみられる。	新型コロナウイルス感染症や自動車等の供給上の制約などの影響から、持ち直しの動きに足踏みがみられる。	➡
雇用	弱い動きとなっている。	弱い動きとなっている。	➡
企業倒産	落ち着いた動きとなっている。	落ち着いた動きとなっている。	➡

※… 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。  
絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

## II 主な指標の動き

### 1 生産

#### ○ 鉱工業生産指数

12月の鉱工業生産指数（季節調整値，平成27年＝100）は106.5（速報値）で，前月比は2.2%低下し，2か月ぶりの低下となった（図1，2）。

業種別にみると，17業種中，輸送機械工業，電子部品・デバイス工業など5業種が上昇した。一方で，食料品工業，汎用・生産用・業務用機械工業など12業種が低下した。

前年同月比（原指数）では12.4%上昇し，9か月連続の上昇となった。

（資料：県統計課）

→ 数値データは15ページに掲載

図1：前月比（季節調整済指数）

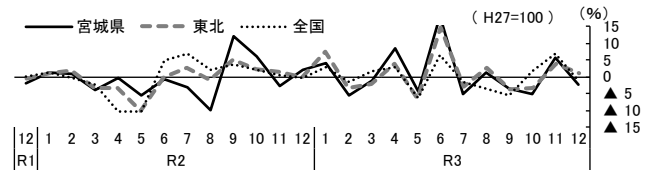
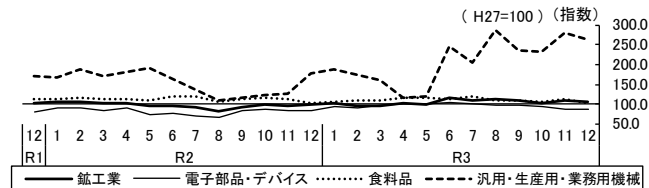


図2：季節調整済指数（宮城県）



### 2 住宅投資

#### ○ 新設住宅着工戸数

12月の新設住宅着工戸数は1,581戸で，前年同月比42.2%増加し，6か月連続の増加となった（図3，4）。

利用別に前年同月比をみると，貸家は93.9%増加し，5か月連続の増加となった。

持家は14.0%増加し，2か月ぶりの増加となった。

分譲住宅は9.9%増加し，6か月連続の増加となった。

（資料：国土交通省）

→ 数値データは18ページに掲載

図3：前年同月比

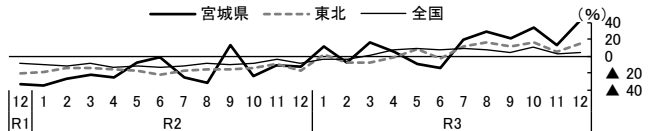
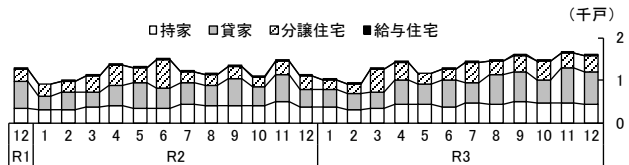


図4：戸数（宮城県）



### 3 公共投資

#### ○ 公共工事請負金額

1月の公共工事請負金額は141億4,600万円で，前年同月比36.6%減少し，2か月ぶりの減少となった（図5，6）。

発注主体別に前年同月比をみると，県は49.3%減少し，11か月連続の減少となった。市町村は32.0%減少し，2か月ぶりの減少となった。国は24.3%減少し，6か月連続の減少となった。その他（独立行政法人等，地方公社，その他）は109.5%増加し，2か月ぶりの増加となった。

（資料：東日本建設業保証(株)）

→ 数値データは20ページに掲載

図5：前年同月比

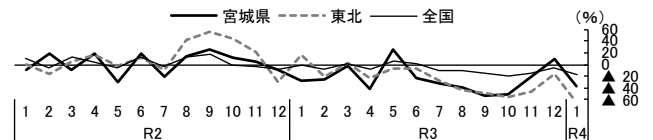
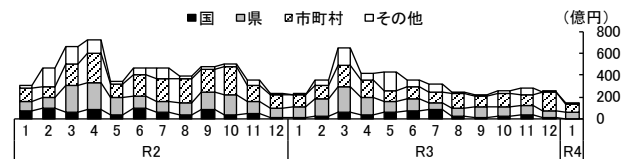


図6：金額（宮城県）



## 4 個人消費

### (1) 百貨店・スーパー販売額

12月の百貨店・スーパー販売額は409億円で、全店舗比較では1.5%減少し、5か月連続の減少となった(図7, 8)。既存店比較は1.3%減少し、5か月連続の減少となった。

商品目別(全店舗比較)で見ると、飲食料品は1.9%減少し、2か月連続の減少となった。衣料品は13.4%減少し、7か月連続の減少となった。その他商品(医薬品, 化粧品, 洗剤, 書籍等)は0.7%増加し、2か月ぶりの増加となった。食堂・喫茶は16.4%増加し、3か月連続の増加となった。家具・家電・家庭用品計は6.7%増加し、4か月連続の増加となった。身の回り品は8.3%増加し、2か月連続の増加となった。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは21ページに掲載

### (2) コンビニエンスストア販売額

12月のコンビニエンスストア販売額は206億円で、前年同月比1.1%増加し、3か月ぶりの増加となった(図9, 10)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

### (3) 家電大型専門店販売額

12月の家電大型専門店販売額は66億円で、前年同月比7.3%減少し、2か月連続の減少となった(図11, 12)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図7：前年同月比(全店舗, 百貨店・スーパー計)

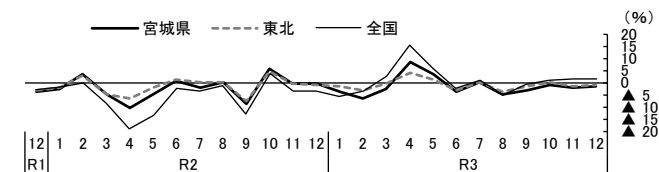


図8：金額(宮城県)

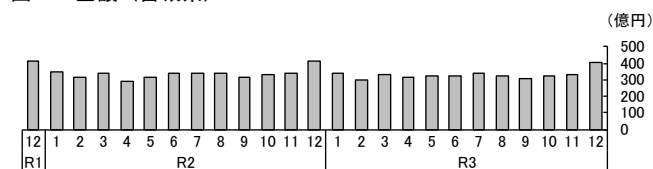


図9：前年同月比

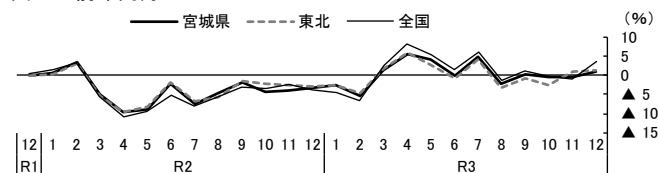


図10：金額(宮城県)

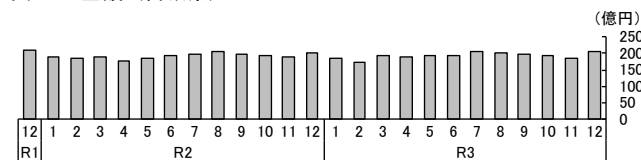


図11：前年同月比

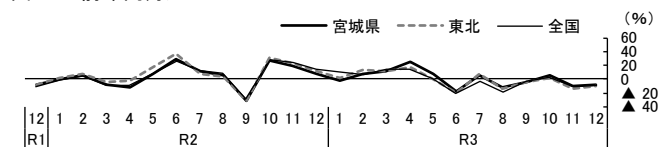
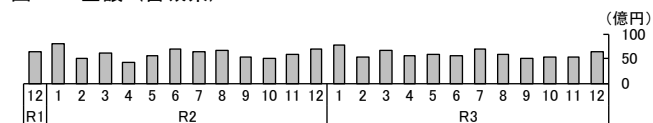


図12：金額(宮城県)



#### (4) ドラッグストア販売額

12月のドラッグストア販売額は127億円で、前年同月比5.7%増加し、9か月連続の増加となった(図13, 14)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図13：前年同月比

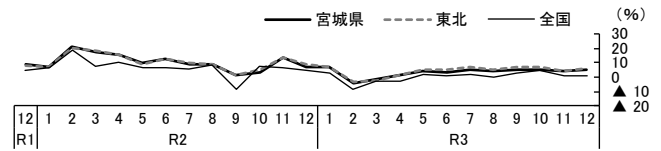
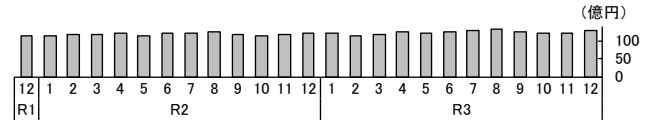


図14：金額(宮城県)



#### (5) ホームセンター販売額

12月のホームセンター販売額は70億円で、前年同月比1.4%減少し、2か月連続の減少となった(図15, 16)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図15：前年同月比

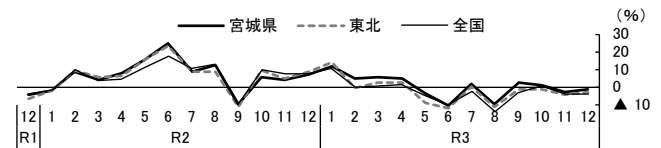
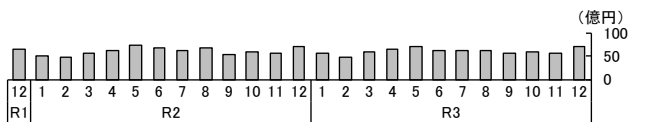


図16：金額(宮城県)



#### (6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値\*)

12月の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値)は878億円で、前年同月比0.4%減少し、2か月連続の減少となった(図17, 18)。

※4(1)～(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

(資料：東北経済産業局)

図17：前年同月比

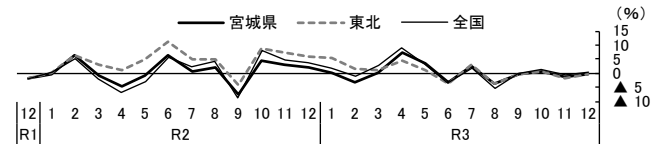
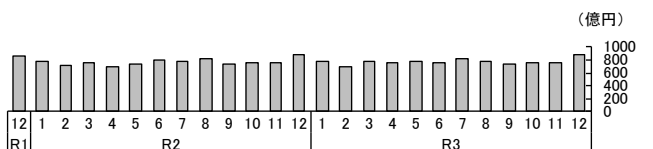


図18：金額(宮城県)



#### (7) 乗用車新車登録及び届出台数

1月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は4,922台で、前年同月比20.0%減少し、8か月連続の減少となった(図19, 20)。

車種別に前年同月比をみると、軽自動車は23.9%減少し、8か月連続の減少となった。普通車は22.3%減少し、5か月連続の減少となった。小型車は11.4%減少し、15か月連続の減少となった。

(資料：東北運輸局，全国軽自動車協会連合会)

→ 数値データは25ページに掲載

図19：前年同月比(普通車，小型車，軽自動車)

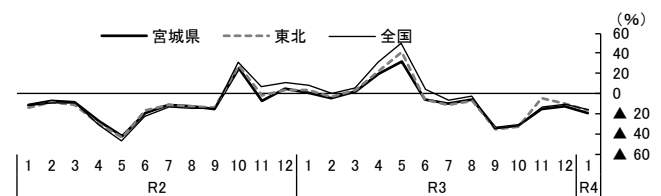
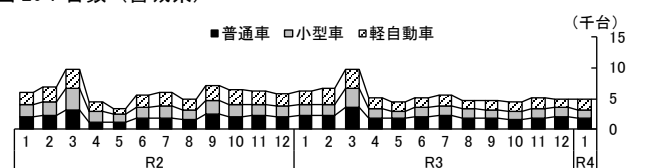


図20：台数(宮城県)



## (8) 物価

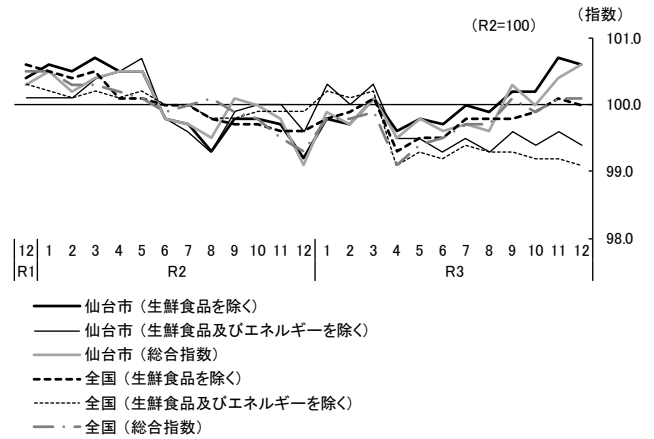
12月の仙台市消費者物価指数を前月比で見ると、生鮮食品を除く総合指数（令和2年=100）は100.6で、前月比0.1%下落し、4か月ぶりの下落となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数（同）は99.4で、前月比0.1%下落し、2か月ぶりの下落となった。総合指数（同）は100.6で、前月比0.2%上昇し、2か月連続の上昇となった（図21）。

前年同月比で見ると、生鮮食品を除く総合指数（同）は1.4%上昇し、6か月連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数（同）は0.2%下落し、4か月連続の下落となった。総合指数（同）は1.5%上昇し、4か月連続の上昇となった。

（資料：県統計課）

→ 数値データは29ページに掲載

図21：消費者物価指数



## 5 雇 用

### (1) 求人倍率

12月の有効求人倍率（季節調整値，新規学卒者除きパートタイム含む）は1.26倍で、前月を0.02ポイント下回り、4か月連続の低下となった。新規求人倍率（同）は2.18倍で、前月を0.08ポイント上回り、2か月ぶりの上昇となった（図22）。

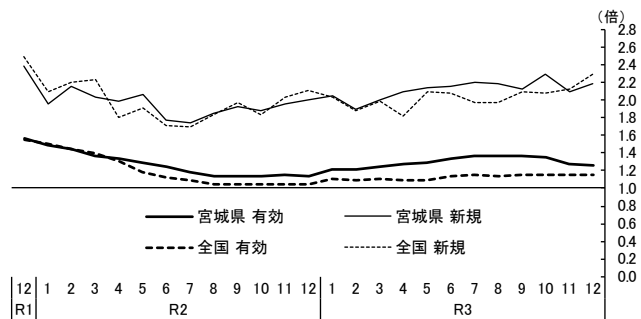
有効求人数及び新規求人数（原数値，新規学卒者除きパートタイム含む）は、有効は前年同月比13.9%増加し、9か月連続の増加となった。新規は前年同月比16.5%増加し、10か月連続の増加となった。

新規求人数を産業別にみると、「医療，福祉」，「サービス業」，「建築業」などで増加となった。一方で、「公務・その他」で減少となった。

（資料：宮城労働局）

→ 数値データは31，32ページに掲載

図22：求人倍率（季節調整済）



## (2) 所定外労働時間

12月の所定外労働時間（製造業，事業所規模30人以上，1人平均月間）は13.9時間で，前年同月比（指数，平成27年=100）が2.2%増加し，12か月連続の増加となった（図23，24）。

（資料：県統計課）

→ 数値データは33ページに掲載

図23：前年同月比（製造業・30人以上，指数(H27=100)）

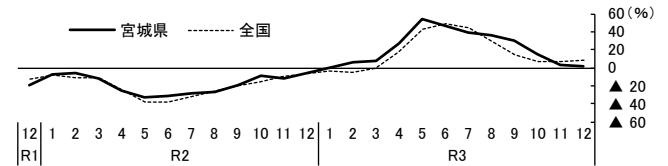
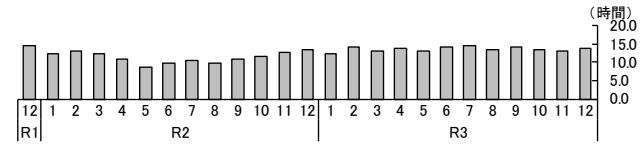


図24：時間数（宮城県，製造業・30人以上）



## (3) 実質賃金指数

12月の実質賃金指数（平成27年=100，現金給与総額，製造業，事業所規模30人以上）は185.2で，前年同月比が7.4%上昇し，9か月連続の上昇となった（図25，26）。

（資料：県統計課）

→ 数値データは33ページに掲載

図25：前年同月比（製造業・30人以上，指数(H27=100)）

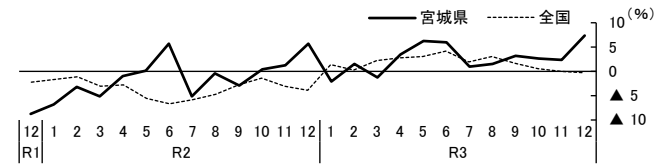
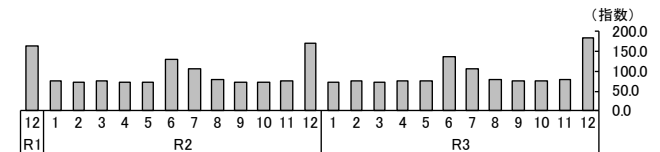


図26：指数（宮城県，製造業・30人以上）



## (4) 雇用保険受給者実人員

12月の雇用保険受給者実人員は7,856人で，前年同月比13.8%減少し，7か月連続の減少となった（図27，28）。

（資料：宮城労働局）

→ 数値データは33ページに掲載

図27：前年同月比

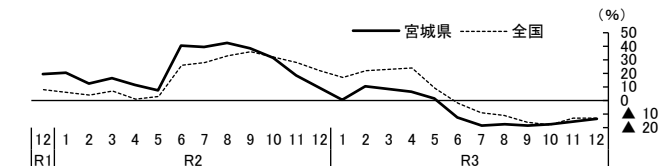
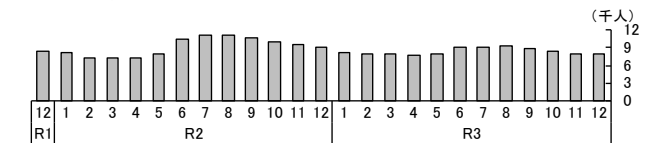


図28：人数（宮城県）



## 6 企業倒産

1月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は11件で、前年同月比120.0%増加し、5か月ぶりの増加となった（図29）。負債総額は13億9,400万円で、前年同月比150.3%増加し、2か月連続の増加となった（図30）。

大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ（赤字累積））の件数は11件となり、全体に占める構成比は100.0%となった。

（資料：株東京商工リサーチ）  
→ 数値データは34ページに掲載

図29：前年同月比（件数）

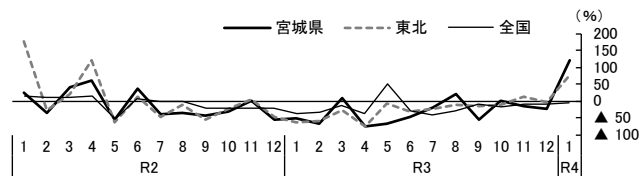
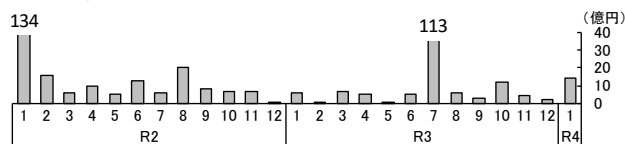
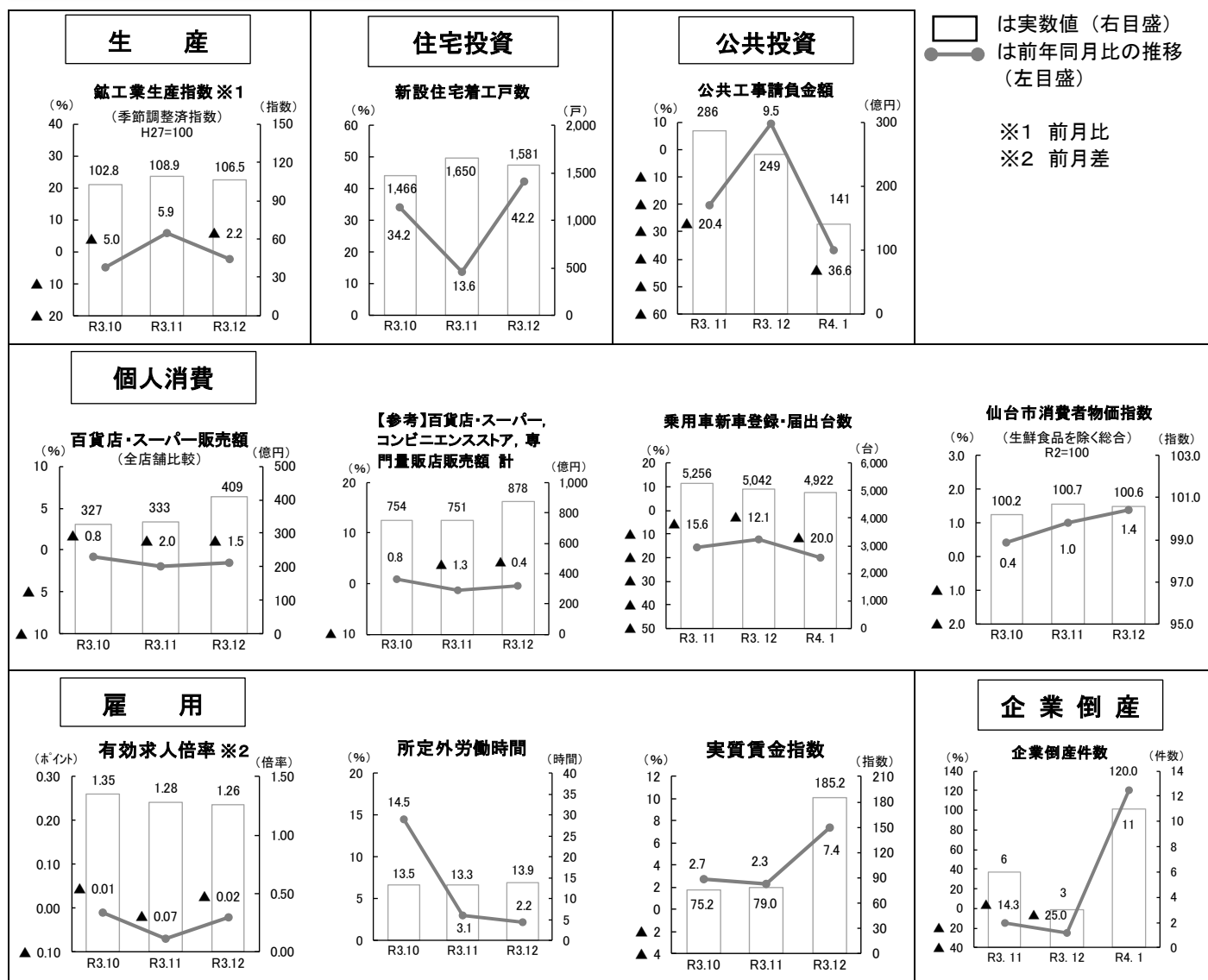


図30：負債総額



### 直近3か月の経済動向（前年同月比の動き）





### Ⅲ 宮城県景気動向指数

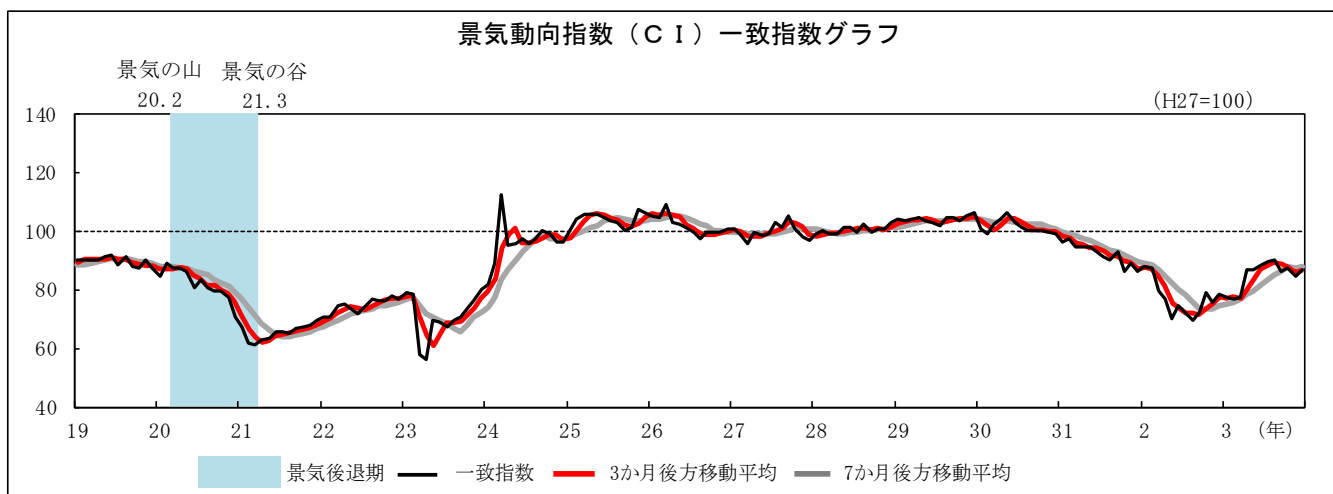
#### 1 景気動向指数（C I）の概況

令和3年12月のC I（H27=100）は、先行指数 119.0、一致指数 87.1、遅行指数 83.8となった。

先行指数は前月差で 4.6ポイント上昇し、3か月連続の上昇となった。

一致指数は前月差で 2.1ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

遅行指数は前月差で 2.7ポイント上昇し、2か月連続の上昇となった。



#### 2 景気動向指数（C I）の個別系列の動き

(H27=100)

	寄与度がプラスとなった指標			寄与度がマイナスとなった指標		
先行系列	○ 引き続き上昇に寄与した系列	寄与度		○ 引き続き下降に寄与した系列	寄与度	
	乗用車新車新規登録台数(軽含む) 中小企業業界景況感	1.85 0.95	3か月連続 4か月連続			
先行系列	○ 上昇への寄与に転じた系列			○ 下降への寄与に転じた系列		
	新規求人数(学卒除く、パート) 生産財生産指数 日経商品指数(42種) 新設住宅着工床面積	1.59 0.13 0.13 0.50	3か月ぶり 2か月ぶり 2か月ぶり 2か月ぶり	投資財生産指数	-0.67	2か月ぶり
一致系列	○ 引き続き上昇に寄与した系列	寄与度		○ 引き続き下降に寄与した系列	寄与度	
	輸入通関実績	0.71	3か月連続	有効求人倍率(合計) 百貨店・スーパー販売額	-0.57 -0.13	4か月連続 2か月連続
一致系列	○ 上昇への寄与に転じた系列			○ 下降への寄与に転じた系列		
	所定外労働時間指数(調査産業計) 実質定期給与指数(製造業)	1.43 1.13	2か月ぶり 2か月ぶり	鉱工業生産指数	-0.54	2か月ぶり
遅行系列	○ 引き続き上昇に寄与した系列	寄与度		○ 引き続き下降に寄与した系列	寄与度	
	消費者物価指数(仙台市) 勤労者世帯消費支出(仙台市)	1.28 0.36	2か月連続 2か月連続	離職者数(事業主都合)〔逆〕	-0.57	3か月連続
遅行系列	○ 上昇への寄与に転じた系列			○ 下降への寄与に転じた系列		
	法人事業税調定額	1.87	3か月ぶり	雇用保険受給者実人員〔逆〕 営業倉庫保管残高	-0.07 -0.25	2か月ぶり 5か月ぶり

注:〔逆〕は逆サイクルを示す。逆サイクルとは、指数の上昇、下降が景気の動きと反対になることをいう。

### 3 景気動向指数（C I）の推移及び個別系列の寄与度

(H27=100)

系 列 名		令和3年						
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	
先 行 指 数	<b>C I 先行指数</b>	<b>112.7</b>	<b>112.2</b>	<b>106.0</b>	<b>109.8</b>	<b>114.4</b>	<b>119.0</b>	
	前月差 (ポイント)	1.4	-0.5	-6.2	3.8	4.6	4.6	
	3か月後方移動平均	109.0	112.1	110.3	109.3	110.1	114.4	
	7か月後方移動平均	105.5	107.1	108.2	109.1	109.9	112.2	
	L1 新規求人数(学卒除く, パート)	0.22	-1.35	1.87	-0.02	-1.37	1.59	1
	L2 投資財生産指数	-1.48	2.28	-1.13	-0.86	2.16	-0.67	2
	L3 生産財生産指数	-0.63	-0.79	-2.21	0.19	-0.17	0.13	3
	L4 日経商品指数(42種)	1.41	0.13	0.53	1.38	-0.24	0.13	4
	L5 乗用車新車新規登録台数(軽含む)	0.71	0.30	-7.60	2.16	4.02	1.85	5
	L6 新設住宅着工床面積	1.39	0.14	0.42	0.05	-0.70	0.50	6
L7 全銀貸出残高(前年同月比)	0.15	-0.20	0.31	0.02	-0.43		7	
L8 中小企業業界景況感(前年同月比)	-0.37	-1.12	1.65	0.71	1.33	0.95	8	
一致トレンド成分	0.05	0.09	0.01	0.08	0.05	0.13		
一 致 指 数	<b>C I 一致指数</b>	<b>89.9</b>	<b>90.3</b>	<b>86.4</b>	<b>87.5</b>	<b>85.0</b>	<b>87.1</b>	
	前月差 (ポイント)	1.1	0.4	-3.9	1.1	-2.5	2.1	
	3か月後方移動平均	88.5	89.7	88.9	88.1	86.3	86.5	
	7か月後方移動平均	83.5	85.3	86.6	88.1	87.8	87.9	
	C1 所定外労働時間指数(調査産業計)	0.88	-0.12	-1.81	0.86	-1.08	1.43	1
	C2 有効求人倍率(合計)	0.61	0.35	-0.05	-0.13	-1.95	-0.57	2
	C3 実質定期給与指数(製造業)	-0.56	0.51	-0.92	0.45	-0.61	1.13	3
	C4 鉱工業生産指数	-1.31	0.29	-0.97	-1.26	1.42	-0.54	4
	C5 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)	0.92	-1.35	0.40	0.64	-0.46	-0.13	5
	C6 輸入通関実績	0.55	0.78	-0.59	0.51	0.25	0.71	6
遅 行 指 数	<b>C I 遅行指数</b>	<b>74.7</b>	<b>75.0</b>	<b>80.0</b>	<b>78.5</b>	<b>81.1</b>	<b>83.8</b>	
	前月差 (ポイント)	2.9	0.3	5.0	-1.5	2.6	2.7	
	3か月後方移動平均	73.4	73.8	76.6	77.8	79.9	81.1	
	7か月後方移動平均	70.0	71.3	73.0	74.3	76.4	77.8	
	Lg1 離職者数(事業主都合)〔逆〕	-0.78	-1.29	2.32	-1.84	-0.79	-0.57	1
	Lg2 雇用保険受給者実人員〔逆〕	0.83	0.76	0.81	-0.11	1.02	-0.07	2
	Lg3 消費者物価指数(仙台市, 前年同月比)	1.48	0.87	-0.69	-0.04	1.94	1.28	3
	Lg4 勤労者世帯消費支出(仙台市, 前年同月比)	-0.16	0.17	0.17	-0.61	0.68	0.36	4
	Lg5 営業倉庫保管残高	-0.18	0.15	0.91	2.26	0.33	-0.25	5
	Lg6 法人事業税調定額	1.66	-0.36	1.40	-1.15	-0.67	1.87	6
一致トレンド成分	0.03	0.06	0.01	0.06	0.04	0.09		

注:〔逆〕は逆サイクル系列を表す。

### 4 【参考】景気動向指数（D I）

令和3年12月のD I 先行指数 71.4% (2か月ぶりに50%を上回った)  
 一致指数 33.3% (2か月連続で50%を下回った)  
 遅行指数 83.3% (2か月連続で50%を上回った)

※ C I 及びD I の長期時系列データについては宮城県企画部統計課ホームページを参照

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/keiki.html>

## IV 全国・東北等の景況

### 1 全国の景況

月例経済報告（内閣府） 2月17日

[ <https://www.cao.go.jp/> ]

景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。

- ・個人消費は、このところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。
- ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。
- ・生産は、持ち直しの動きがみられる。
- ・企業収益は、感染症の影響が残る中で、非製造業の一部に弱さがみられるものの、持ち直している。企業の業況判断は、持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は、感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。
- ・消費者物価は、底堅さがみられる。

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染拡大による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

経済・物価情勢の展望 —展望レポート— 基本的見解（日本銀行） 1月18日

[ <https://www.boj.or.jp/> ]

わが国の景気は、内外における新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らぐもとの、持ち直しが明確化している。海外経済は、国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している。そうしたもとの、輸出や鉱工業生産は、供給制約の影響を残しつつも、基調としては増加を続けている。また、企業収益や業況感は全体として改善を続けている。設備投資は、一部業種に弱さがみられるものの、持ち直している。雇用・所得環境をみると、一部で改善の動きもみられるが、全体としてはなお弱めとなっている。個人消費は、感染症によるサービス消費を中心とした下押し圧力が和らぐもとの、持ち直しが明確化している。住宅投資は持ち直している。公共投資は高水準ながら弱めの動きとなっている。わが国の金融環境は、企業の資金繰りの一部に厳しさが残っているものの、全体として緩和した状態にある。物価面では、消費者物価（除く生鮮食品、以下同じ）の前年比は、携帯電話通信料の引き下げの影響がみられるものの、エネルギー価格などの上昇を反映して、小幅のプラスとなっている。また、予想物価上昇率は、緩やかに上昇している。

## 2 東北の景況

管内（東北6県）の経済動向（東北経済産業局） 2月17日

[ <https://www.tohoku.meti.go.jp/> ]

持ち直しの動きがみられる

- ・ 鉱工業生産：持ち直しの動きがみられる
- ・ 個人消費：持ち直しの動きがみられる
- ・ 住宅着工：持ち直しの動きがみられる
- ・ 公共投資：減少している
- ・ 設備投資：増加している
- ・ 雇用：一部に持ち直しの動きがみられる
- ・ 企業倒産：落ち着いた動きとなっている

（※前月と基調判断に変更がある場合は矢印で上下を示している。）

経済の動き（日本銀行仙台支店） 2月24日

[ <https://www3.boj.or.jp/sendai/> ]

東北地域の景気は、基調として持ち直しているが、一部に弱い動きがみられる。最終需要の動向をみると、公共投資は、減少している。設備投資は、増加している。個人消費は、一部に弱い動きがみられる。住宅投資は、持ち直している。この間、生産は、持ち直しの動きがみられる。雇用・所得環境をみると、一部に改善の動きがみられる。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

地域経済報告—さくらレポート—（日本銀行） 1月12日

[ <https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/> ]

東北地域の景気は、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が落ち着く中、一部に持ち直しの動きがみられている。最終需要の動向をみると、公共投資は、減少している。設備投資は、増加している。個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられている。住宅投資は、持ち直している。この間、生産は、足もと供給制約等から幾分弱含んでいるものの、総じてみれば増加基調にある。雇用・所得環境をみると、一部に改善の動きがみられる。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。こうした中、企業の業況感は、幾分改善している。

### 3 宮城県の景況

宮城県経済の動き（七十七リサーチ&コンサルティング株式会社） 2月8日

[ <https://www.77rc.co.jp/> ]

#### 総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動や新型コロナウイルスの影響などがあるものの、全体としては持ち直しに向けた動きとなっている。

#### 概況

生産は持ち直しの動きとなっているが、一部に供給上の制約がみられる。需要面の動きをみると、公共投資は震災復興需要の反動などから減少している。住宅投資は持ち直している。個人消費は一部に新型コロナウイルスの影響が残るが、総じて底堅さがうかがわれる。雇用情勢は弱含みであるものの、持ち直しに向けた動きとなっている。

この間、企業の景況感は総じて持ち直しの動きとなっている。

## 【 用 語 解 説 】

- **指 数**：ある統計データについて、100 又は 1 を基準とした数値で表し、時間的な変化や比率などをわかりやすくしたもの。

(例) りんごの価格の指数を求めてみます。基準年を平成 27 年とした場合、平成 27 年のりんごの価格指数は 100 となります (H27=100)。りんごの平成 27 年の平均価格が 30 円で、今月の価格が 31 円だった場合、今月のりんごの価格の指数は、 $30 \text{ 円} = 100$  なので、比例計算で以下のとおり 103.3 となります。

$$(\text{りんごの価格指数}) \quad 31 \text{ 円} \div 30 \text{ 円} \times 100 = 103.3$$

- **季節調整**：経済に関する時系列データについて、真の変動を把握するため、元データから季節による変動分（季節変動<sup>\*</sup>）を取り除くこと。

※ 季節変動（季節性）の例

- ・ 夏にかき氷の販売が増える。
- ・ 冬にストーブの販売が増える。
- ・ 決算対策のため中間決算や決算の時期に生産や販売が増加する。

- **前月（期）比**：前月（期）からの変化率。

$$\text{前月（期）比} = \frac{\text{当月（期）の値} - \text{前月（期）の値}}{\text{前月（期）の値}}$$

\* **足元の動き**を見るための目安になります。季節変動のあるデータについては季節調整済の値により比較します。

- **前年同月（期）比**：前年の同じ月（期）からの変化率。

$$\text{前年同月（期）比} = \frac{\text{当月（期）の値} - \text{前年の同じ月（期）の値}}{\text{前年の同じ月（期）の値}}$$

\* 季節変動があるため単純に前月（期）と比較することができないものについては、前年の同じ月（期）と比較することで、季節的な要因を考慮せずに変化の方向性が見やすくなります。ただし、大規模災害など前年に特別な出来事の発生により大きく増減した場合には、その反動により当月（期）も大きく増減するので注意が必要です。